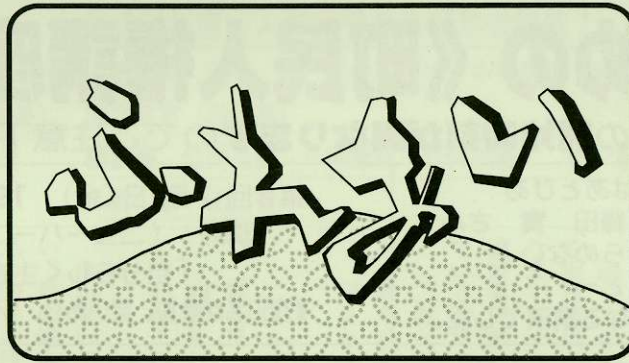




いろんな人と人のつながり、
ふれあいを美浜のMと波で
イメージしました。



美浜町人権尊重啓発協議会会報

第42号

発行:平成22年7月23日
(年3回発行)

編集:人権協広報調査部会
連絡先:美浜町生涯学習課

TEL 32-6709

FAX 32-9032

E-mail:jinkenkyo@town.fukui-mihama.lg.jp

第1回町民人権講座 (6月2日) テーマ【高齢者】

「がんばらない」けど「あきらめない」

～命を支えるということ～

医師・作家

かま た みのる
鎌 田 實 さん



医療現場での体験、世界の動きや歴史、そしてご自身の生い立ちに至るお話を、優しい口調で語ってくださいました。

医師団を派遣している紛争地帯やチェルノブイリの画像を使いながら、「あきらめない」活動を紹介されました。「99%自分のために、1%人のために」という言葉が深く心に響き、会場全体があたたかい気持ちになった講演でした。

会場となった保健福祉センターはあとぴあでは300人を超える方が鎌田さんの講演に聞き入りました。講演会終了後、たいへん多くの感想が寄せられました。その中から4つ紹介します。

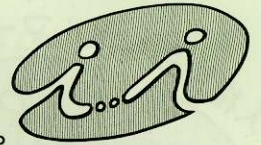
温かい心の連鎖が国の下半身を強くする。この話が一番感動いたしました。人間一人ひとりが温かい血を通わせることで、美浜町もあたたかな町になると確信しました。あたたかな心が国を変え、人を変え自分も変われること。みんなで手をつなぎたいと思います。

おじいさんやおばあさんがたくさん来られていて、一生懸命メモを取りながら話を聞いている姿を見てとても感動しました。

“99%自分のために、1%人のために生きる”この言葉を内に秘めて生きていきたいと思った。また、みんながそんな気持ちでいると、先生の言われるように世の中が変わって、住みよい世の中、平和な世の中となるだろう。

たまたま帰省し、この講演会を知り参加しました。優しい語り口が胸にしみました。大変感動しました。大企業に勤めて36年、定年後には帰省しようと思っていますが、このような講演が企画される美浜をととても頼もしく思いました。

あなたのための《町民人権講座》



※ 今年度は、各回の開始時刻が異なりますのでご注意ください。

第1回 6月2日(水) 19:00～ はあとびあ
講師：(医師・作家) 鎌田 實 さん
「がんばらないけどあきらめない」
～命を支えるということ～
約300名が参加。心があたたかくなる講演でした。

第2回 7月2日(金) 19:30～ 中央公民館
講師：(ニューハーフのプロ) 梶浦 梶子 さん
「自分らしく生きる」
約150名が参加。笑いあり、ショーありの楽しい講座でした。

第3回 8月8日(日) 15:30～ 中央公民館
講師：(日本理化学工業(株)) 大山 泰弘 さん
「重度の知的障がい者に働く幸せを」

はじめて知的障がい者を雇用して以来、一貫して障がい者雇用を推し進めています。現在76人の社員のうち56人が知的障がい者で製造ラインの行程にも様々な工夫をこらしており、こうした経営が評価され、2009年渋沢栄一賞を受賞されました。



人間平等は地球の法則であり、人間社会の差別は人為です。地球の法則にそむくことがあまりにも当たり前ゆえ、皆、見失ってしまっている。草清水が大洋に流れ込むにも似た小説、『橋のない川』です。人為社会と法則社会、この違いがわかる映画であって欲しい…と願っています。
(作者：住井すゑ 談)

第4回 9月7日(火) 19:00～ 中央公民館
映画上映「橋のない川」
～愛を知り、人は光を放ち始める～
人間の尊厳を掲げて敢然と差別に抗して立ち上がっていく人々の姿が描かれた映画です。



これまでに、人と自然のつながりをテーマに取り組んでこられた農村地域での自然再生など具体的な活動内容を含め、環境保全活動を通して感じられる人と自然との関わり方や人と人との関わりなど、人と自然の共生についてのご経験やお考えをお聞かせいただけます。

第5回 10月6日(水) 19:30～ 中央公民館
講師：(環境アセスメントセンター北信越支社敦賀事務所長) 関岡 裕明 さん
「環境保全と私たちの暮らし」
～身近な自然を振り返る～



ネットいじめ・いじめ・不登校・ひきこもり・少年犯罪に本格的に取り組む。全国各地より依頼を受け、年間200会場以上で講演会や研修会を行い、過去5年間での受講者数も20万人を超えています。テレビやラジオにも多数出演されるほか、多くの新聞雑誌にも記事を掲載しています。

第6回 11月21日(日) 14:30～ はあとびあ
講師：(全国Webカウンセリング協議会理事長) 安川 雅史 さん
「試される親力」
～ネットいじめ、携帯依存への対応策～

ご近所さん

私は小さい頃、近所のおばちゃん、おじちゃん達が大好きでした。小さい頃は、近所の人たちはみんな親戚だと勝手に思っていました。夕方遅くまでお家におじゃまし、おやつと一緒に食べたり、時には夕食も共にさせてもらったりしていました。思い返すと、なんて失礼な子だったのだろうと思いますが、そんな私を温かく、優しく育ててくださいました。今でもそんなご近所さんが大好きで、つい声をかけておしゃべりしてしまいます。

最近、人との付き合いがめんどうくさい、どう関わっていいかわからないというお話を耳にします。関わりがうまく持たず、悩んだり悲しんだりすることは、私自身もよくあります。人と人との関わりほど難しいものはないのかもしれませんが、ですが、その半面、人との出会いほどすてきなものはないと思います。人とのつながりがなくなってしまうと、人は心にゆとりをもたず生きていけないのではないかと思います。「嫌いな人とは関わらない。」それもひとつの方法かもしれませんが、お互いに成長しあい、理解しあうことができるのではないのでしょうか。心が通じ合った時の喜びは、例えようがないものです。

今まで出会ってきた人たちがら得てきたことや喜び、幸せを、これから先、出会うべくして人たちに少しでも感じてもらえるような人間になりたいと思います。また、私もみんなに愛されるすてきな近所のおばちゃんになって、子どもたちにも、人との出会いの素晴らしさを伝えていきたいと思えます。



田中 涼子

平成22年度 人権協役員及び部会構成

名誉会長 山口治太郎(町長) 顧問 北村 晋(議会議長) 中村春彦(副町長) 大同 保(教育長)
 参与 橘 惠慶(元会長) 国立政宣(前会長)
 会長 武藤実学 副会長 竹仲良廣 一瀬繁紘 竹仲敏春 監事 杉木繁行 竹本三代一
 事務局長 鳥井安夫 幹事 山口有一



新会長
武藤実学さん

この度、図らずも人権尊重啓発協議会の会長を仰せつかりました。重責を担うには余力にも非力ですが、皆さまのご支援とご協力を頂きながら精一杯務めさせていただきますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

読む人の心に染み入るような優しい言葉で語りかける坂村真民の「二度とない人生だから」という詩があります。一九八〇年、文部科学省がこの詩を中学校道徳指導要領に採録して以来、多くの教科書に掲載されている詩です。

「二度とない人生だから
 露草の露にもめぐりあいの不思議を思い
 足をとどめて見つめてゆこう」

二度とない人生だから
 昇る日 沈む日 丸い月 かけていく月
 四季それぞれの星ぼしの光に触れて
 わがころを洗いぎよめてゆこう (一部抜粋)

はかない命の露草の露、朝夕の日の光の色合いの違い、月の満ち欠け、夜空に輝く星の瞬き・そんな自然の四季の移ろいにころが洗われるように、様々な姿形で自分の周囲に往来する人々に触れて心が洗われる事が実感できる…、これこそ人権尊重の基本ではないでしょうか。お互いに「二度とない人生だから」こそ、人として差異を認め合い高め合い、誰もが幸せに生きていける社会の実現に向けて努力しなければなりません。

人権協として今年も多様な活動を計画しております。皆様の積極的なご参加とご協力をお願い申し上げます。ご挨拶と致します。

人権協7部会の推進員および活動紹介

総務人権部会

竹仲良廣 田辺かづ子 木野 隆 杉浦鷹夫 金松俊治 荒川 亨
 高橋則雄 熊谷純成 安井晶洋 重兼純一 今安宏行

広報小部会

一瀬繁紘 森本 哲 木子隆史 原田登志子
 宇都宮 貴 山野泰孝 田辺直美 武田 晋

啓発資料・人権協コーナー小部会

一瀬繁紘 高橋一男 中村正一 内田順子 竹本三代一
 森井みどり 山口和哉 浜野祥子

作品公募・意識調査小部会

一瀬繁紘 河合政志 福高智恵美 八木真喜 渡辺直史
 西野泰弘 孫野正徳 畠中芳洋 志賀 司

町民人権講座小部会

竹仲敏春 松井明彦 北山法夫 池本敏子 森本克行 木子光博
 高木賢治 田中涼子 野原佐智夫 森下秀樹 武長加奈

推進団体学習小部会

竹仲敏春 松田うめ子 兵庫賢一 大塩友之 高木孝子
 畠中治男 寺田真一 佐竹 敏 竹内正雄 山本由加

人権のつどい小部会

竹仲敏春 津原露美 加藤美千代 木子雅之 中嶋さき子
 三好万里子 関口博美 渡辺 強 武田治和 武田達也

人権キャンペーンなどの啓発活動を行います。



カラー啓発冊子「ふれあい」の発行と、文化祭で展示・体験コーナーをします。



広報「ふれあい」42号～44号を発行し、みなさんに情報を提供します。

今年も人権作品の募集・表彰・作品集作成をします。また、昨年度実施した意識調査の結果を皆さんにお知らせします。



年間6回の町民人権講座を企画・運営します。

各集落・団体・会社等での学習会を応援します。



昨年はハイマーヤンジンさんを招いて人権のつどいを行いました。今年は12月4日(土)に「はあとびあ」で行う予定をしています。今年の企画をおたのしみに

人権に関する町民意識調査の結果から その3

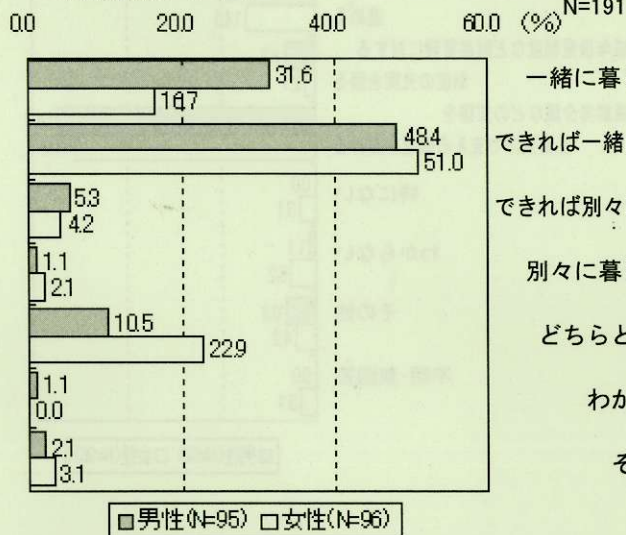
その2（人権協だより第41号 H22.2.23 発行）に引き続き、今回は、「高齢者の人権について」の結果を報告させていただきます。

<アンケートの質問内容>

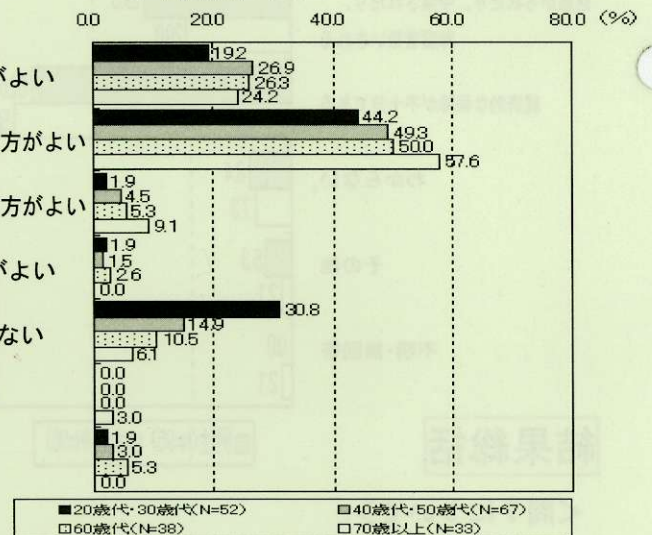
- 問7. 高齢者が、子どもや子ども夫婦と暮らすことについて、あなたはどのように思いますか。
 問8. もし仮に、あなたの身体が虚弱（不自由）になって、日常生活を送る上で介護を必要とするようになった場合、どこで介護を受けたいですか。
 問9. あなたは、高齢者に関して現在どのような人権上の問題があると思われますか。
 （3つまで選んで○をつけて下さい。）
 問10. あなたは、高齢者の人権を守るために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。
 （3つまで選んで○をつけて下さい。）

問7. 高齢者が子どもや子ども夫婦と暮らすことについて グラフ中のNは回答者数

<男女別グラフ>

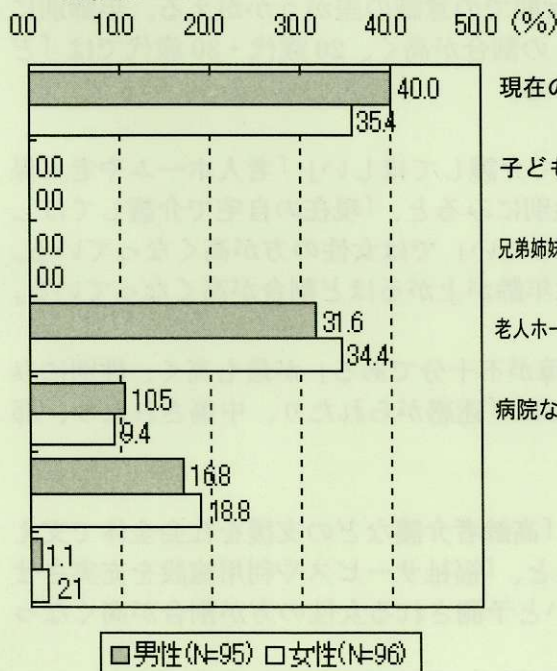


<年代別グラフ>

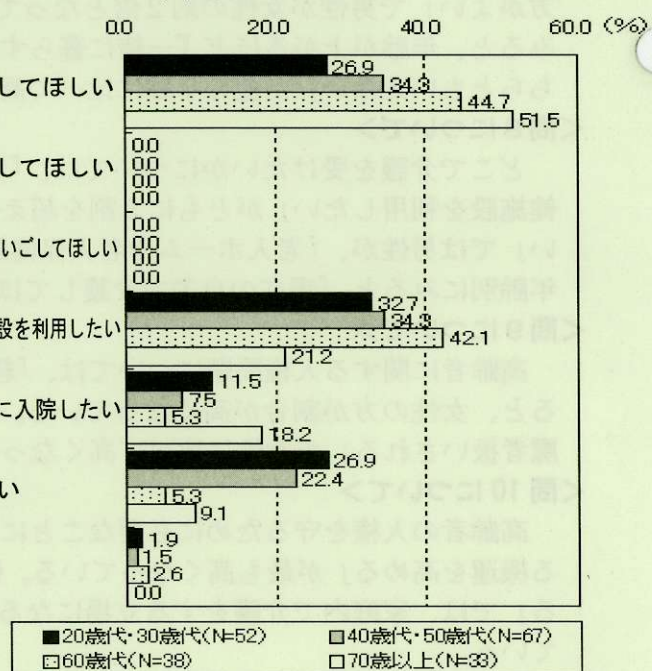


問8. あなたが介護を必要とするようになった場合、どこで介護を受けたいか

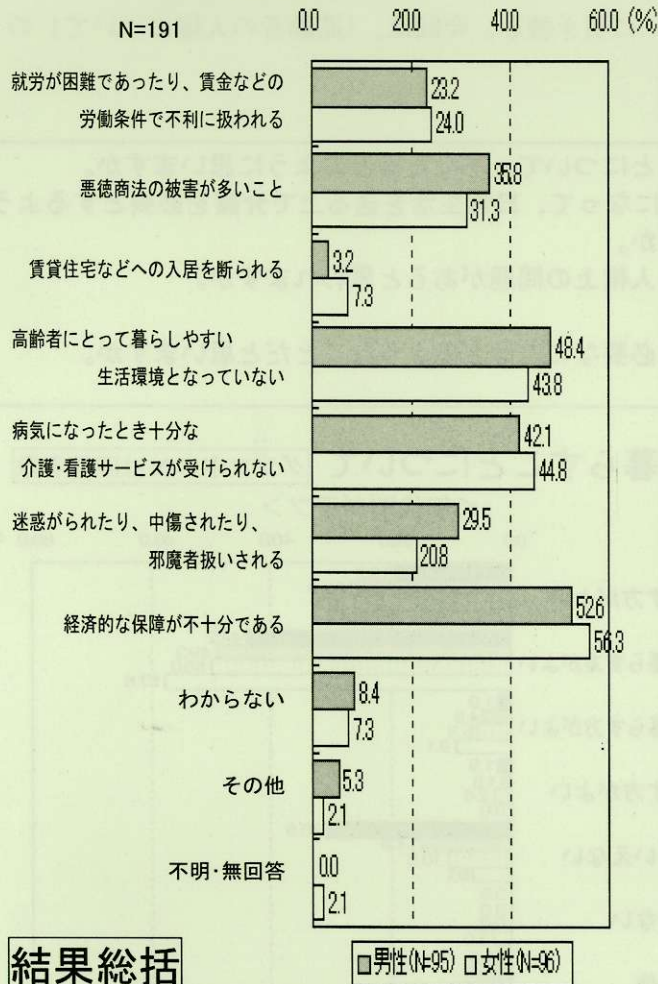
<男女別グラフ>



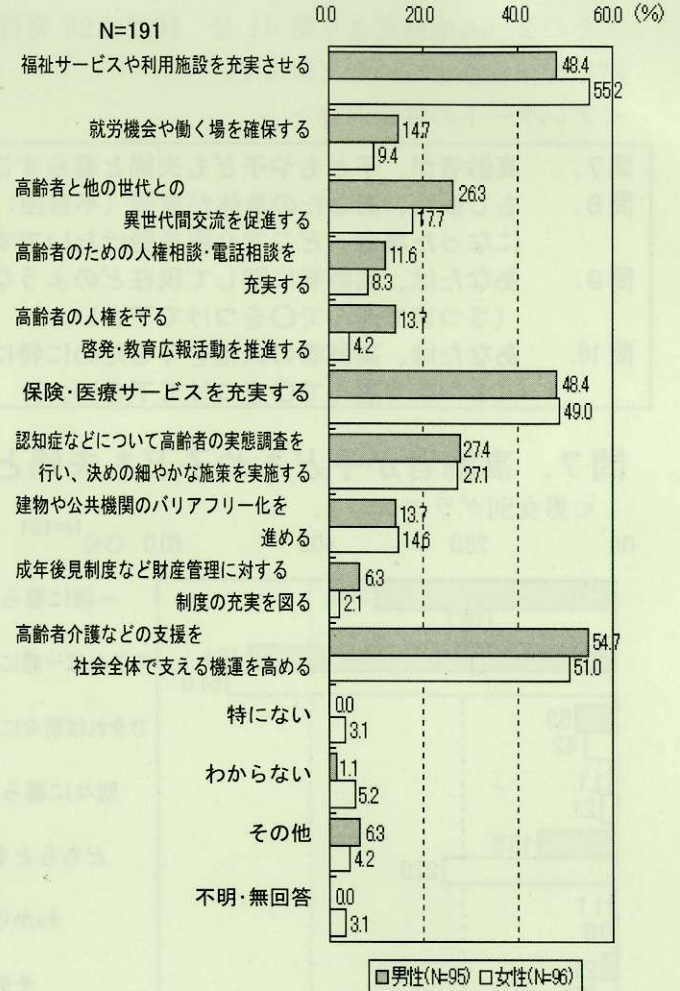
<年代別グラフ>



問9. 高齢者に関する人権上の問題 (複数回答)



問10. 高齢者の人権を守るために必要なこと(複数回答)



結果総括

<問7について>

高齢者が子どもや子ども夫婦と暮らすことについて、「できれば一緒に暮らす方がよい」を含めた『一緒に暮らす方がよい』との回答が約7割を占めている。性別にみると、「一緒に暮らす方がよい」で男性が女性の約2倍となっており、男女間での意識の差がうかがえる。年齢別にみると、年齢が上がるほど『一緒に暮らす方がよい』の割合が高く、20歳代・30歳代では「どちらともいえない」が他の年齢に比べて高くなっている。

<問8について>

どこで介護を受けたいかについては、「現在の自宅で介護してほしい」「老人ホームや老人保健施設を利用したい」がともに3割を超えている。性別にみると、「現在の自宅で介護してほしい」では男性が、「老人ホームや老人保健施設を利用したい」では女性の方が高くなっている。年齢別にみると、「現在の自宅で介護してほしい」では年齢が上がるほど割合が高くなっている。

<問9について>

高齢者に関する人権問題については、「経済的な保障が不十分である」が最も高く、性別にみると、女性の方が割合が高くなっている。一方男性では「迷惑がられたり、中傷されたり、邪魔者扱いされる」が女性に比べて高くなっている。

<問10について>

高齢者の人権を守るために必要なことについては、「高齢者介護などの支援を社会全体で支える機運を高める」が最も高くなっている。性別にみると、「福祉サービスや利用施設を充実させる」では、家庭内で介護をする立場になることが多いと予測される女性の方が割合が高くなっている。

みなさんのご家庭でも、この結果を家族で話題にしていただけると幸いです。

こえ 声 こえ

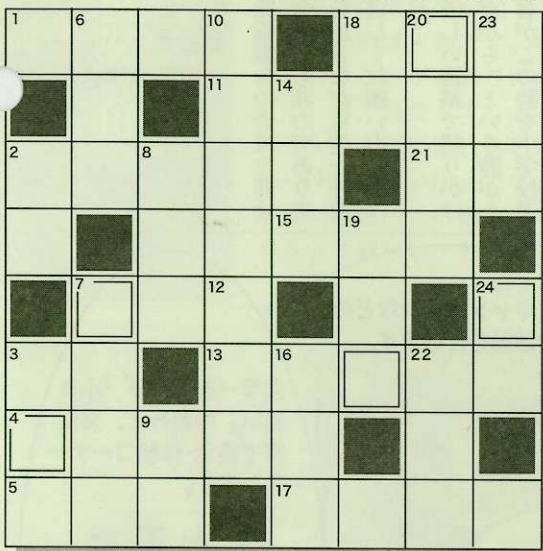
「ふれあい」第41号をお読みにになった読者の方より、おたよりが寄せられましたので一部を紹介します。

○山口さんのコラムを読んで、本当だなあーと思いました。私が小学生の頃も挨拶運動が盛んに行われていました。小学校を出て、すれ違う近くの高校生のお兄さんやお姉さんにも、あいさつしているいると会話をしたことを思い出しました。私の子どももそうだが、今の子どもたちは大きな声で自分からあいさつできているかな?と思います。もじもじとしている様な気がします。元気にあいさつされると気持ちいいものです。みんながそうなれるといいなと思います。
【河原市Yさん】

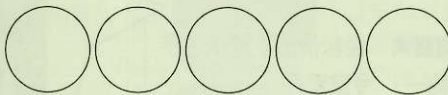
○活動されている行事にふれて、人を思いやる心が再確認され、とても良いことだと思います。
【日向Hさん】

○朝目が覚めて夜床につく迄、ありがたい事だらけなのに、この年になっても、なかなか声を出して「ありがとう」と言えない自分が情けなく思う毎日です。心あたたまる手紙を読ませていただきありがとうございます。身近な人々に「ありがとう」を言える毎日を心がけたいと思います。
【興道寺Kさん】

○毎回、楽しく読ませていただいています。クロスワードは認知症のパロメーターとしています。今回もなんとか「答え」らしきものが出ましたが…。
【興道寺Nさん】



二重わくの中に入った文字を使ってできる言葉が答えです。



■応募方法■

- 答え・住所・氏名を別紙とじこみ用紙に書いて下記までお送り下さい。
〒919-1192 美浜町郷市25-25
美浜町生涯学習課内 人権協事務局
- 〆切は、平成22年8月23日(月)です。
- 正解者の中から抽選で5名の方に、図書カードをお送りします。
- なお、前号の「人権クロスワード」の正解は、「ささえあい」でした。当選者は次の皆様でした。おめでとうございます。
野原 智美さん (新庄)
山口 裕子さん (河原市)
木村 静香さん (興道寺)
楠 菜々子さん (佐野)
藤原 茂樹さん (和田)

よこのカギ

1. サッカーワールドカップ予選リーグで日本と対戦しました。
2. サッカーワールドカップ予選リーグで日本と対戦しました。
3. 戦国時代の頃の中国の王朝。
4. サッカーワールドカップ予選リーグで日本と対戦しました。
5. 特定の分野に対し、専門的知識を持っている人のこと。
7. 兵庫県北部の旧国名。黒毛和牛などで有名
11. 成人は大体一分間に60~90で、手首などで取ります。
13. カナダとアメリカの国境にある有名な滝。○○○○○の滝。
15. 裁縫をする時に使用したりします。
17. 一は1、二は2、三は3、四は5、五は4。
18. 鉛筆で字が書けるのもコレのおかげ。
21. 銀行にお金を預けておくと付きます。

たてのカギ

2. 10を表す接頭語はデカ、では10分の1を表す接頭語は。
3. 人をコレで判断してはいけません。
6. 眼鏡やコンタクトをしていない状態のこと
7. 麺と炒めた肉野菜に、塩味の鶏がらスープを加えたもの。
8. 地図上で寺を表します
9. 野球でバッターはコレに向かって走ります。
10. 本物に似せて偽装したもの。
12. 行儀や作法のこと。
14. ショウガや山椒のような、料理に添える香辛料や野菜などのこと。
16. 他の火や熱が移って燃えること。
18. 温かい牛乳が冷えると表面に出来ます。
19. ジュニアの対義語。年長者を意味します。
20. 北海道の北方にある島。
22. 一般的に窓の素材に使われています。
23. 漢字で「土筆」と書く、食用にもなる春の野草。
24. 北極海やその周辺を中心に獲れる魚。魚へんに雪と書く。

編集後記

新東京タワー「スカイツリー」がどこから見えるかが、テレビや雑誌でよく話題になっている。直接見えずとも、ビルの窓ガラスや川の水面に映って、ここでも、あそこでも…など。遠くは、神奈川県や埼玉県からも見えるそうである。今後高さが増すと、もっと遠くから見えるようになるだろう。

今年度第一回の町民人権講座は、三百名を超える盛況となった。講師の知名度によるところも大きい。嶺南各地に加え、福井市からも参加者があった。人権協が遠くからも見られていることはありがたい。

しかし、町内で人権協の活動が十分に見えているかというと、まだまだ課題がある。タワーのようにそびえ立っても、見えない所は必ずある。小さな背だけでもいいから、あちこちに「人権の木」を、町民の皆さんといっしょに育てていきたいと思う。

七つ道具ならぬ、七部会の活動にご協力をお願いします。